

原著

看護のアイデンティティー、その6：看護倫理に関する大学生と看護師の 価値観の相違とその意味

工藤 二郎* 小田 日出子* 窪田 恵子** 中馬 成子***

〈要 旨〉

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育することは、看護大学が充実した教育を行なうために重要な課題である。これにより学生は看護に対するアイデアを尽きること無く刺激され、また、卒業後も職業人として臨床の場で勇気づけられて義務の達成が容易なものとなるであろう。大学教育に役立てるため、我々はこれまでに看護のアイデンティティーに関するキーワードのうち、看護職の資質、個人的行動、看護職に重要な社会生活、看護技術の4つの範疇のキーワードについて看護師と学生の価値観の差について報告してきた。この報告では、第5範疇である看護倫理に関する44キーワードについて学生と看護師の価値観の差について報告する。

相違を比較するのは、前の報告と同様、入学経緯や教育環境が類似である本学1年生と卒業生の看護師の2集団である。学生と看護師の回答に基づき、彼女らが最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から44番の各キーワードの得点を看護師と学生の2種類にデータベース化した。各キーワードの得点を看護師と学生の母数でそれぞれ除してこれを平均倫理指数と名付けた。さらに、学生から看護師に変化したときの価値観の変化を明白にするため、「看護師倫理指数」の「学生倫理指数」に対する比を求めた。この操作により、看護師になることにより重要性が高まり、かつ両者がある程度の高得点を与えたものとして、患者の感情や話を受け止める、専門知識を増す、ニーズの把握と正確な対応、自尊心（羞恥心）の尊重、個々の患者に合わせた対応、謙虚に患者に接する、などの語句が抽出された。患者の感情や話を受け止める、専門知識を増す、ニーズの把握と正確な対応、の各キーワードは看護師での得点が高くかつ学生との価値観の差も大きかった。一方、学生は、生命の尊重、患者の心に目を向ける、に看護師よりもかなり高い評価を与えていた。

看護師がことに高い点を与えた、患者の立場にたつ、守秘する、患者の感情や話を受け止める、安心を与える（不安を無くする）、専門知識を増す、人権尊重または差別しない、などは看護教育の方法やカリキュラムに反映させるに適切な項目と考えられた。

キーワード：アイデンティティー、看護教育、看護大学生、看護倫理、カリキュラム

はじめに

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育することは、看護大学が充実した教育を行なうために重要な課題である。これにより学生は看護についてのアイデアを無限に刺激され、卒業して職業を得た後も臨床の場で勇気づけられ、また、持続した職務遂行が可能となるであろう。このような考えから我々はこの研究を企画した。我々はまず、学生と看護師の二集団において、看護職がどのように理解されている

かを比較することから開始した。本学で学習し始めた学生、また、本学を卒業し、臨床の場で活動している2～3年目の看護師の各集団は生活歴と教育の背景が比較的一致し、価値観の変化が比較しやすいと考えたからである。さらにその変異をみることにより、臨床経験によって獲得される高次の価値観を学生に知らせ、考察させることも可能となると考えた。

第1報から第5報により、我々は看護に関するキーワードの選択、質問表の作成、看護師としての資質や個人的行動、社会的行動、看護技術について学生と看

* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 教授

** 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 助教授

*** 大阪府立大学 看護学部 大学院

護師の間の重要度の差を報告した¹⁾⁻⁵⁾。この操作により、各範疇より看護職に重要と考えられる、おそらく真性のキーワードが選択されてきた。この報告は当初に選択された多数のキーワードの最後の範疇、看護倫理についての学生と看護師の価値観の差についての分析である。

本研究のようにキーワードを操作しながら看護の現実近づき、それを教育に役立てようとする研究は少なく、教育現場に生かされた例は調べ得た限りでは無い。しかし、Pangら⁶⁾⁻⁷⁾の一連の研究は、カテゴリー分類と質問表を使い看護職の本質に迫ろうと意図するもので興味深い。彼女らは中国における看護の定義を確立する目的で、254人の看護職者にアンケートして117個の名詞句を抽出し、また、質問を整理分類して看護の意味、本質、目的、行動、役割などについての表を作り、1782の回答より重要度や各因子の関連性を計測した⁷⁾。この研究の質問法や重み付けの処理などは我々の方法とは大きく異なるが、研究経緯は我々のものと

類似である。最近、八尋⁸⁾は各学年の看護学生の価値観を、倫理特性とケアリングのとらえ方から検討し、報告した。彼女は、「倫理特性調査票」と「ケアリングのとらえ方調査票」の質問票で学年間の変化を計測し、学年が進むにつれ有意差の見られる倫理特性の因子やケアリングのとらえ方があることを報告している。この研究は、分析の期間が学生期の4年間とごく短いにもかかわらず変化が明確にとらえることを示している。我々の研究は上記の各研究とは目的と方法が異なっている。すなわち、本学の看護学生と本学卒業の看護師という関連の強い2集団を対象とし、この2つの集団間の変化を比較し、看護職の本質を探りながら学生の教育に役立てようとしている。

この第6の報告では、抽出された152キーワードのうち看護師としての看護職技術の範疇に属する44語句について、看護学生と臨床経験が1年を越えている看護師の価値観の相違を報告する。

表1 アンケートの看護倫理項目の部分と配点法

E. 看護倫理項目

- 1)守秘(カルテの個人情報漏らさない、プライバシーの保護)
- 2)人権尊重または差別(価値判断)しない
- 3)患者の立場にたつ(共感的態度)
- 4)専門知識を増す
- 5)安らぎ(安楽)の提供
- 6)安心を与える(不安を無くする)
- 7)対象者の感情や話を受け止める(受容)
- 8)丁寧な(温かい)ケア
- 9)正しい技術
- 10)技術の向上
- 11)患者の可能性を見つける
- 12)専門知識を使う
- 13)患者に関心をもつ
- 14)生命の尊重
- 15)生活の質を上げる
- 16)援助的態度
- 17)いたわりの態度
- 18)奉仕精神
- 19)尊厳の尊重
- 20)倫理的判断
- 21)患者との良き人間関係をつくる
- 22)患者の病状を把握する
- 23)患者の励みになる言葉づかい
- 24)自尊心(羞恥心)の尊重
- 25)誠意をもって接する
- 26)個々の患者に合わせた対応
- 27)患者の自立(自己管理能力)を助ける
- 28)患者に受け入れられやすい行動
- 29)基本をしっかりする
- 30)謙虚に患者に接する
- 31)医師患者の架け橋
- 32)高度の看護の提供
- 33)看護制度の確立に活動する
- 34)日常感覚の尊重
- 35)医療と養護の専門家となる
- 36)患者の心を開かせる言動や気持ちを持つ
- 37)患者についての多くの個人情報を得る
- 38)資格職であることの自覚
- 39)患者の心に目を向ける
- 40)いやしの気持ちを持つ
- 41)ニーズの把握と正確な対応
- 42)意志や感情を患者から自然に表出させる援助
- 43)患者の代弁者となる
- 44)必要不必要なケアを見分ける

E. の枠内のキーワードは、看護倫理上で重要な行動と言えそうなものです。あなたが看護職を行って、最も重要に思えるものから順に番号を記入してください。

点10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	

この範疇に妥当と思われる他の言葉を思いつかれたら下の四角内に入れ、重要さの順番を書いて下さい。

方法

全キーワードの最初の抽出は看護学科1年生と編入生の書いた小論文より行った。彼女達が医療概論の受講後、課したレポートの題は「医療や養護を担う看護師、保健師、養護教諭として心がけるマナーにはどのようなものがありますか。また、それはなぜ重要と思いますか。」であった。レポートの提出は76で、看護師として書かれたレポートは71であり、5人が養護教諭として書かれていた。当初のキーワード抽出は看護師として書かれた71レポートより行った。これらのレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動パターン、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動パターン、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または職業倫理の5つに区分された¹⁾。今回の報告でも区分と属するキーワードは全く変えていない。

今回の分析はこの分類の第5範疇、専門倫理的な態度・行動、または職業倫理の44キーワードについてである。アンケートは本学の卒後1年目の看護師59名、卒後2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、また、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。

表1はアンケートの第5カテゴリーの部分と段階的な配点数を示している。すなわち学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていく方法である。これは重み付けにより、各概念の得点を強調し、真性のキーワードを抽出しやすくするための操作である。ここで、このカテゴリーをより簡潔に表わすため、このカテゴリーに「看護倫理」という略名をつけた。

1番から44番の各キーワードの得点を看護師または学生の2種類にデータベース化した。このアンケートの集計を本学の看護学科1年の集団と臨床経験が1年を越えた看護師、すなわち2年目ないし3年目の看護師集団について比較検討した。まず学生集団での各キーワードの平均得点と、看護師集団の各キーワードの平均得点を比較しグラフ化した。これらには「倫理指数」と略名をつけた。さらに、学生と看護師で変化が大きいものを散布図で表わした。これらの操作には表計算と画像処理のコンピューター・ソフトを用いた。

結果

1) アンケート回答数と新たなキーワードの収集

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職1年目の看護師からの回答は30通であった。しかし彼女たちは、看護経験がまだ4カ月目であったため今回の結果には含めなかった。この30通の回答は、将来、学生から看護師への過渡期の分析に有用と考えている。一方、本学看護学科1年生からの回答は22通であった。この中には看護職の経験のある学生はいなかった。回答は少数ではあるが、新しいキーワードを加えるなど深く考察している所見はあった。

倫理の項目に相当と考える新たなキーワードを記載した看護師は無かった。学生の一人が「患者の心理を察する」と書き11位としていた。留意すべき項目と考えられる。また、本報告には含めていない就職1年目の看護師が「優先順位の迅速な判断」を5位にあげ、他の一人が「心で看護する」を1位にあげていた。これらも後の参考としたい貢献である。

2) 44キーワードの学生と看護師からの得点と平均値

1番から44番の各キーワードの得点はデータベース化されて集計された。データベースより各キーワード番号順に得点を抽出、総和し、各番号の総得点を全看護師回答数の36で除して平均し「看護師倫理指数」としている。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生倫理指数」を求めた。これらすべての数値は表2にまとめている。看護師と学生の各キーワードの技術指数をグラフ化したものを示す(図1)。図を見ると3, 1, 7, 6, 4, 2, 41, 8, 5のキーワードは看護師による配点が高い。これらは、患者の立場に立つ、守秘する、患者の感情や話を受け止める、安心を与える、専門知識を増す、人権の尊重、ニーズの把握と正確な対応、丁寧な(温かい)対応、安らぎ(安楽)の提供、に各々相当する。

一方、1, 3, 2, 6, 39, 5, 14, 8番のキーワードは学生の配点が高く、これらは、守秘する、患者の立場に立つ、人権の尊重、安心を与える、患者の心に目を向ける、安らぎ(安楽)の提供、生命の尊重、丁寧(温かい)ケア、であった。守秘する、は学生の1位、看護師で2位であった。また、患者の立場に立つ、は学生の2位、看護師では1位を占めるキーワードであった。

看護のアイデンティティー、その6

表2 アンケートの看護倫理の部分で得られた全てのデータ

キーワード番号	内容	学生倫理指数	看護倫理指数	倫理変化指数
1	守秘する	6.5	5.1111	0.786324615
2	人権尊重または差別しない	3.40909	2.57777	0.756146068
3	患者の立場にたつ	5.22727	5.22222	0.999033913
4	専門知識を増す	1.36363	2.61111	1.914822936
5	安らぎ（安楽）の提供	2.36363	2.05555	0.869658111
6	安心を与える（不安を無くする）	3.18181	3.55555	1.117461445
7	感情や話を受け止める	1.68181	3.61111	2.147156932
8	丁寧な（温かい）ケア	2	2.05555	1.027775
9	正しい技術	1.5909	0.77777	0.488886794
10	技術の向上	1.36363	1.16666	0.855554659
11	患者の可能性を見つける	1.13636	0.41666	0.366661973
12	専門知識を使う	0.0909	0.52777	5.806050605
13	患者に関心をもつ	0.0909	0.52777	5.806050605
14	生命の尊重	2.13636	1.11111	0.520094928
15	生活の質を上げる	0.95454	0.97222	1.018522011
16	援助的態度	0.04545	0.11111	2.444664466
17	いたわりの態度	0.5	0.04545	0.0909
18	奉仕精神	0.31818	0.75	2.357156327
19	尊厳の尊重	0.72727	0.47222	0.649304935
20	倫理的判断	0.04545	0.04545	1
21	患者との良き人間関係をつくる	1.5909	1.47222	0.925400717
22	患者の病状を把握する	1.81818	1.27777	0.702774203
23	患者の励みになる言葉づかい	0.45454	0.30555	0.672218067
24	自尊心（羞恥心）の尊重	0.5909	1.52777	2.5854967
25	誠意をもって接する	1	1.30555	1.30555
26	個々の患者に合わせた対応	0.68181	1.69444	2.485208489
27	患者の自立（自己管理）を助ける	1.81818	1.36111	0.748611249
28	患者に受け入れられやすい行動	0.31818	0.22222	0.698409705
29	基本をしっかりする	1.31818	0.88888	0.674323689
30	謙虚に患者に接する	0.36363	1.30555	3.590325331
31	医師患者の架け橋	1.40909	0.61111	0.433691248
32	高度の看護の提供	0.86363	0.52777	0.611106608
33	看護制度の確立に活動する	0.04545	0.04545	1
34	日常感覚の尊重	0.04545	0.25	5.500550055
35	医療と養護の専門家となる	0.31818	0.30555	0.960305487
36	患者の心を開かせる言動や気持ち	0.77272	0.27777	0.359470442
37	患者の多くの個人情報を得る	0.13636	0.5	3.666764447
38	資格職であることの自覚	0.68181	0.55555	0.814816444
39	患者の心に目を向ける	2.5	1.52777	0.611108
40	いやしの気持ちを持つ	0.04545	0.66666	14.6679868
41	ニーズの把握と正確な対応	0.95454	2.19444	2.29895028
42	意志感情を自然に表出させる援助	0.77272	0.69444	0.898695517
43	患者の代弁者となる	0.40909	0.02777	0.067882373
44	必要不必要なケアを見分ける	1.36363	0.66666	0.488886281

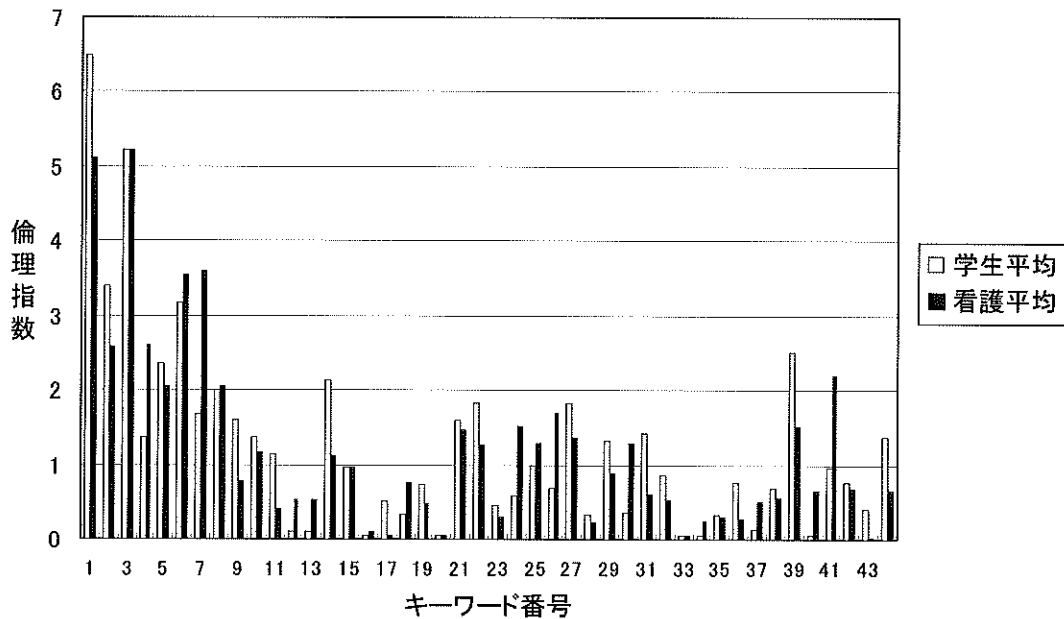


図1 看護師と学生それぞれで44個のキーワードが得た平均倫理指数

3) 看護師の倫理指数と学生の倫理指数の比較

次に、各キーワードの「看護師倫理指数」を「学生倫理指数」で除した値を求めた。この操作により、学生から看護師になった後の価値観の変化が想像できる。その結果を図2に示す。図2の縦軸は「[看護師技術指数] / [学生技術指数]」で横軸はキーワード番号である。これをみると、変化が大きいものは順に、40,13,12,34,37,30番となり、いやしの気持ちをもつ、患者に関心をもつ、専門知識を使う、日常感覚の尊重、患者の多くの個人情報を得る、謙虚に患者に接する、であった。反対に学生において価値が高かったものは、43,17,36,11,であった。これらは順に、患者の代弁者となる、いたわりの態度、患者の心を開かせる言動や気持ち、患者の可能性を見つける、である。

4) 得点が高くかつ価値観の差が大きいキーワード

価値の変化が数値として大きいものが必ずしも重要なキーワードとは限らない。その理由は、[看護師倫理指数] / [学生倫理指数] の比率は高くても看護師と学生の配点が共に低い場合もあるからである。そこで各値の組みで散布図を描き、看護師と学生の配点が目に見えるようにした。図3はその散布図で、縦軸が看護師倫理指数、横軸が学生倫理指数、ななめに引いた直線は [看護師倫理指数] = [学生倫理指数] の線である。この直線より上の点は学生に比べ看護師がより重要と考えるキーワードを示し、下の点は看護師に比べ学生

がより重要と考えるキーワードを示す。また [看護師倫理指数] = [学生倫理指数] の線から離れるほど看護師と学生の価値観の差が大きいものとなる。これを見ると看護師になることにより重要性が高まり、かつ両者がある程度の得点を与えたものとして、7番の患者の感情や話を受け止める、4番の専門知識を増す、41番のニーズの把握と正確な対応、24番の患者の自尊心(羞恥心)の尊重、26番の個々の患者に合わせた対応、30番の謙虚に患者に接する、などの語句が抽出された。7番の患者の感情や話を受け止める、4番の専門知識を増す、41番のニーズの把握と正確な対応、の各キーワードは看護師での得点が高くかつ学生との価値観の差も大きかった。一方、図で明らかのように、14番の生命の尊重、39番の患者の心に目を向けるは学生が看護師よりもかなり高い評価を与えていた。学生と看護師双方がある程度評価するもので、学生がさらに高く評価する項目であることがわかる。

看護のアイデンティティー、その6

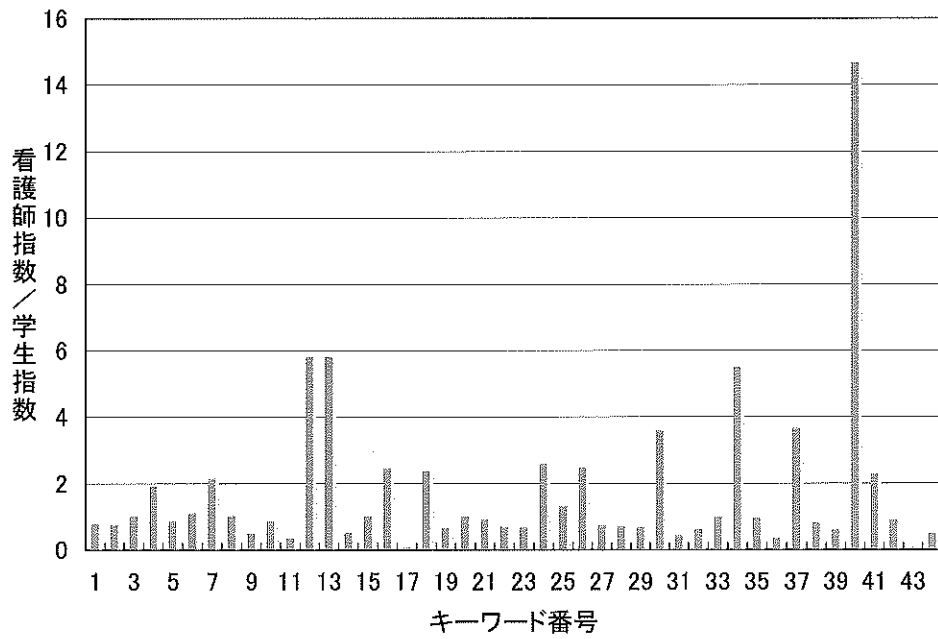


図2 各キーワードの [看護師指数] / [学生指数]

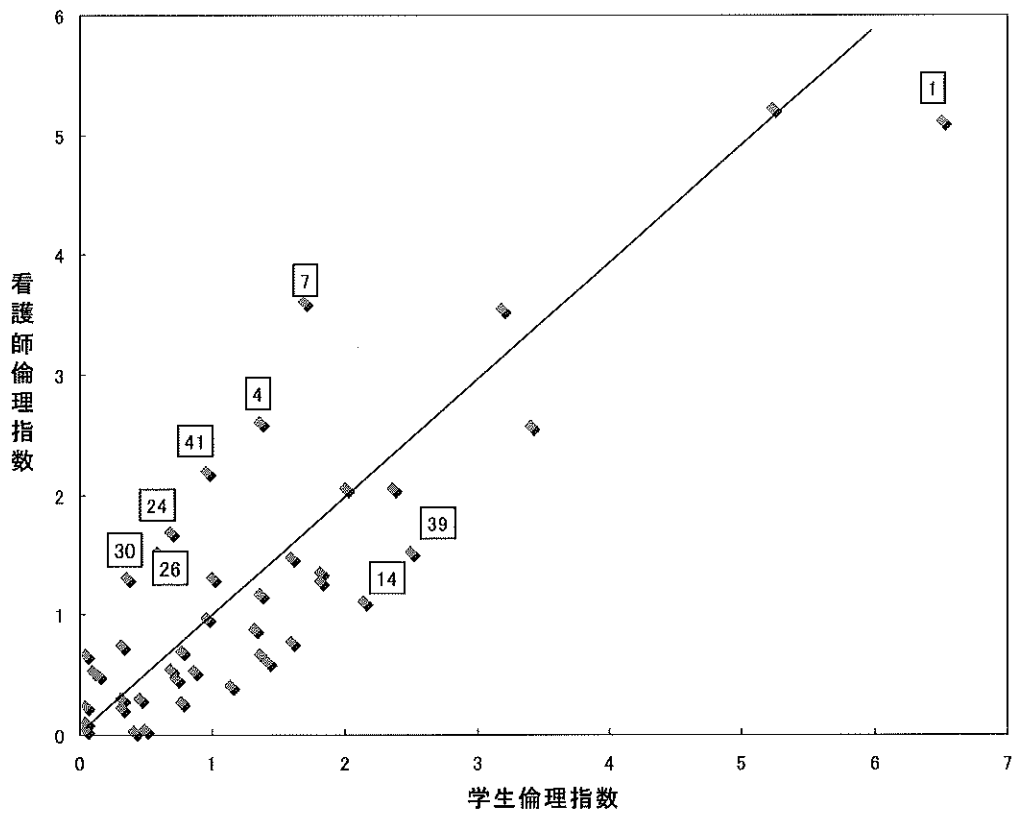


図3 倫理指数の看護師と学生の散布図
ななめに引いた直線は [看護師倫理指数] = [学生倫理指数]

考察

初回の報告¹⁾では学生の71レポートでの各キーワードの出現頻度をみた。レポート中で出現頻度の多かった倫理項目は、1番の守秘する、3番の患者の立場に立つ、6番の安心を与える、9番の正しい技術、2番の人権の尊重、7番の感情や話を受け止める、17番のいたわりの態度、24番の自尊心や羞恥心の尊重などであった。これらに相当する今回の学生の指数はそれぞれ高く、この研究法で各語句は順当に配点されると考えられる。従ってこれまで報告した全ての範疇の計数法は、学生レポート中の言葉の出現頻度と殆ど平行する結果を導くことが明らかとなり、高い得点を得たキーワードは真性のキーワードとなると考えられる。興味あることに、学生の選んだ1位と2位の、守秘する、患者の立場に立つは、看護師ではそれぞれ2位と1位を占めていた。これらは年齢や経験を超えて看護職の核となる価値観であることが予想される。また、「看護師倫理指数」と「学生倫理指数」の散布図から、看護師を経験すると、患者の感情や話を受け止める、専門知識を増す、ニーズの把握と正確な対応、自尊心(羞恥心)の尊重、個々の患者に合わせた対応、謙虚に患者に接する、などが重視されてくることがわかる。このような高い配点のものは、看護師を2～3年経験しても満足しがたい高度のものであろう。

この最後の範疇の分析までに、一体何が姿を表したのだろうか。看護の本質がごく短い名詞句や単語で、年齢や経験を超えて共有されていることが明確となった。また、経験により、あきらかに変化して高度となる価値観が存在することも明らかとなった。これらの結果をもとに、厳選された質問表が作成可能となった。さらに、それを使った看護職の分析が確固とした根拠のもとに可能となった。もし倫理的に問題とされないなら、当初にアンケートに応えた看護1年生22人の就職後の価値観の変化が、より洗練された質問表により研究可能となりえてきた。

修正すべき点も明らかとなった。アンケートの自由意見で最も目立ったものは、選択肢が多過ぎて選び難いというものである。今回のスクリーニングで選択肢の減数は可能となっている。またカテゴリ分類も、正確な名詞句や単語の選択をなしつつ行なうべきである。この場合、個々のカテゴリ間にも重要性の順番はありうるので分析には考慮が必要となる。

最後に、ここ6年間分析してきたように看護教育はきわめて深遠である。我々は、看護の仕事が遂行され

るには教育以外に、健康や運動能力、意外な出来事に対する緊急反応パターン、自らの根源的存在のとらえ方などが大きく影響することを知っている。同時に、その遂行には個人をとりまく人間環境がきわめて大きな因子となっていることも知っている。しかしこのような教育によって形作ることの困難なものは、個人の個性や環境の独自性として別個のケーススタディとしたい。重視すべきことは、個人として看護行動が遂行困難となったとき何らかの個人への価値観の投入、そのあとの潜在力の発露が職業行動を成就させる方向に誘導することも我々は知っている。このようなことはさらに重要なケーススタディとなっていくであろう。そして、ここでは看護教育がある根拠に基づいて行なわれ、成長した看護師集団が全体としてアイデンティティーを共有することにより看護行為が遂行されていく姿を理想としたい。

大学はある個人には職業の方向付けを提供すると同時に、全体の学生の方向性を確固としたものとする環境である。看護職の養成環境は他職とは異なる理念に基づいて行なわれるのが理想であろう。

以上、看護倫理のカテゴリーに分類された項目について、看護学生と看護師の相違とその意味について報告した。最後の第7報は一連の報告を総合的に把握した最終報告となる予定である。

謝辞

この研究は、2000年度西南女学院大学共同研究費「西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業生の実態調査」の助成の一部を受け始められた。

文献

- 1) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティー：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか。西南女学院大学紀要. 5:1-8, 2001
- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティー、その2：看護の資質についての大学生から看護婦への価値観の変容とその意味。西南女学院大学紀要. 6:10-17, 2002
- 3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティー、その3：看護の行動パターンについての大学生から看護婦への価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 7:19-26, 2003

看護のアイデンティティー、その6

- 4) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティー、その4：看護職に重要な社会生活パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味．西南女学院大学紀要．8：1-8, 2004
- 5) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティー、その5：看護技術に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味．西南女学院大学紀要．9：1-8, 2005
- 6) Pang M. C. S. and Wong KST: Cultivating a moral sense of nursing through model emulation. *Nurs Ethics*. 5: 424-440,1998
- 7) Pang M. C. S. and Wong KST, Wang CS, Zhang ZJ, Chan YLH, Lam WYC, Chan KL: Towards a Chinese definition of nursing. *J Adv Nurs*. 46,657-670,2004
- 8) 八尋道子：倫理特性とケアリングのとらえ方から見た看護学生の価値観について．長野県看護大学大学院看護学研究科、看護学修士論文．1-49,2004

Identity of Nursing: Implications for the difference in estimation of nursing ethics between students and nurses (Part 6).

Jiro Kudo*, Hideko Oda*, Keiko Kubota**, Nariko Chuman***

< Abstract >

It is an important assignment for the Japanese nursing colleges to establish the identity of nursing based on materials which students were taught. Students can be stimulated by the fertile source of ideas and be encouraged in the clinical field to accomplish their duties after graduation. We previously showed the difference of estimation in four categories, endowments, personal behavior, social life and nursing techniques concerning identity of nursing between students and nurses for the purpose of nursing education. In this report, we show the difference of the estimation on 44 key words concerning ethics relating to the nursing profession.

We have made a comparison between nurses graduated from our university and students in first year nursing course students. The most important key word they selected was allotted 10 points, the second was 9 points and so on, then every point of each key word was processed in two data bases for nurses and students, respectively. The total point obtained by each key word was divided by the number of nurses and students, respectively, which termed mean ethics index. To show the difference of estimation between students and nurses, the ratio of [nurse's ethics index] / [student's ethics index] of each 44 key word was calculated. The key words which had higher value among nurses than students were "to consider a patient's emotion and complaints", "discipline to integrate professional knowledge", "to consider a patient's needs and correspond correctly", "to consider a patient's dignity and sense of shame", "to consider a patient's individuality", and "to meet with a patient modestly".

Two key words, "to have respect for human life" and "to consider a patient's mind" obtained relatively high scores from students. The key words highly evaluated by nurses, "to have over-riding concern for a patient", "the duty of confidentiality", "to consider a patient's emotion and complaints", "to ease a patient's mind", "discipline to integrates professional knowledge" and "to respect a patient's right" were considered to be important for making a curriculum for the university students.

Keywords: identity, nursing education, nursing ethics, curriculum

* Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

** Associate Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

*** Graduate Student in the Osaka Prefecture University